

調査について

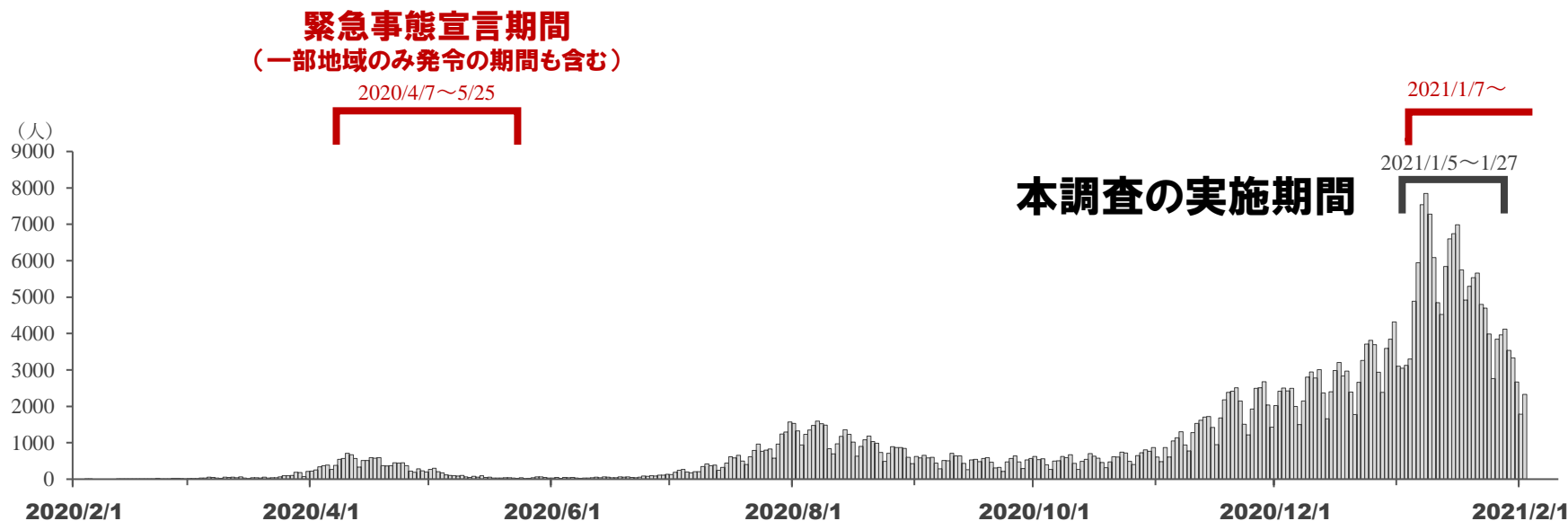
目的

- 新型コロナウイルス感染症の拡大が日本の病院に勤務する看護職にどのような心理的影響を与えているのかを明らかにすること

調査対象者と方法

- 新型コロナウイルス感染症の拡大に関する2020年12月8日時点の全国データをもとに、人口10万人あたりの感染者数が相対的に多い4都道府県、相対的に少ない4都道府県を選定した。該当する都道府県から無作為に病院（100床以上）を抽出した。選出された病院に勤務する看護職10,000名を調査対象とし、オンライン調査を実施した。

調査時期における感染拡大状況



図：全国の新型コロナウイルス感染症陽性患者数の推移 [厚労省：オープンデータ <https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/open-data.html>]

調査時期における緊急事態宣言の変遷

- 2021年1月7日 緊急事態宣言（首都圏の1都3県）
- 2021年1月13日 区域変更（栃木、岐阜、愛知、京都、大阪、兵庫及び福岡の7府県を追加）
- 2021年2月2日 期間延長（～3月7日）、区域変更（栃木解除、10都府県に）

Section 1

対象者の概要

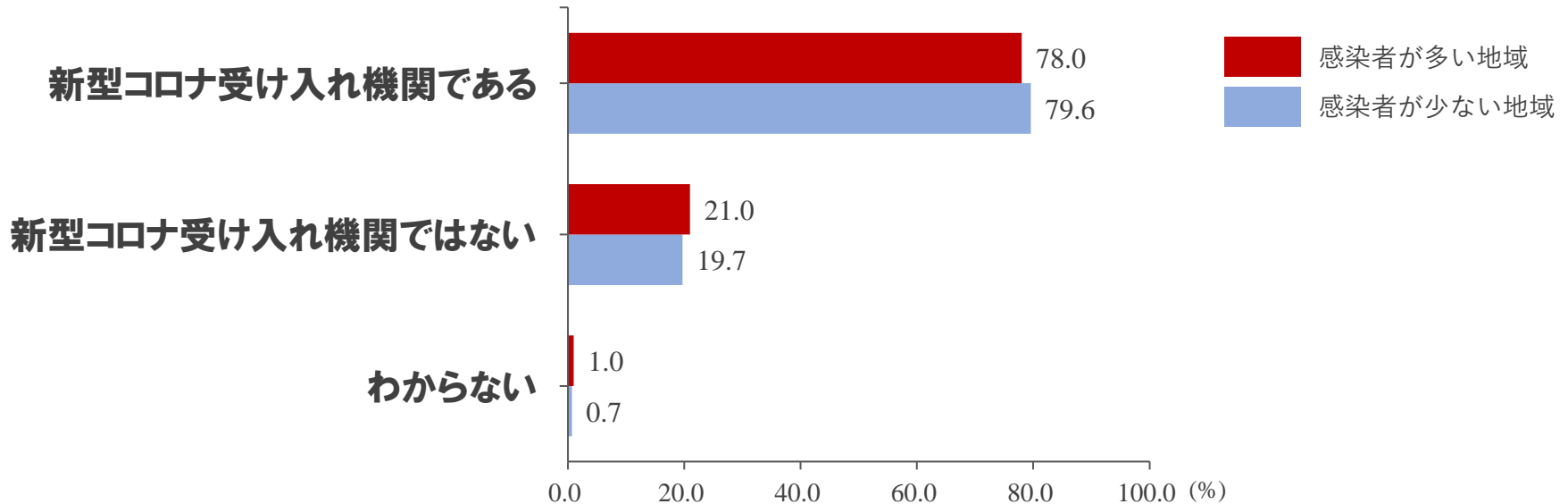
対象者の属性

2021年1月5日～1月27日までに、2,273名から回答を得た。

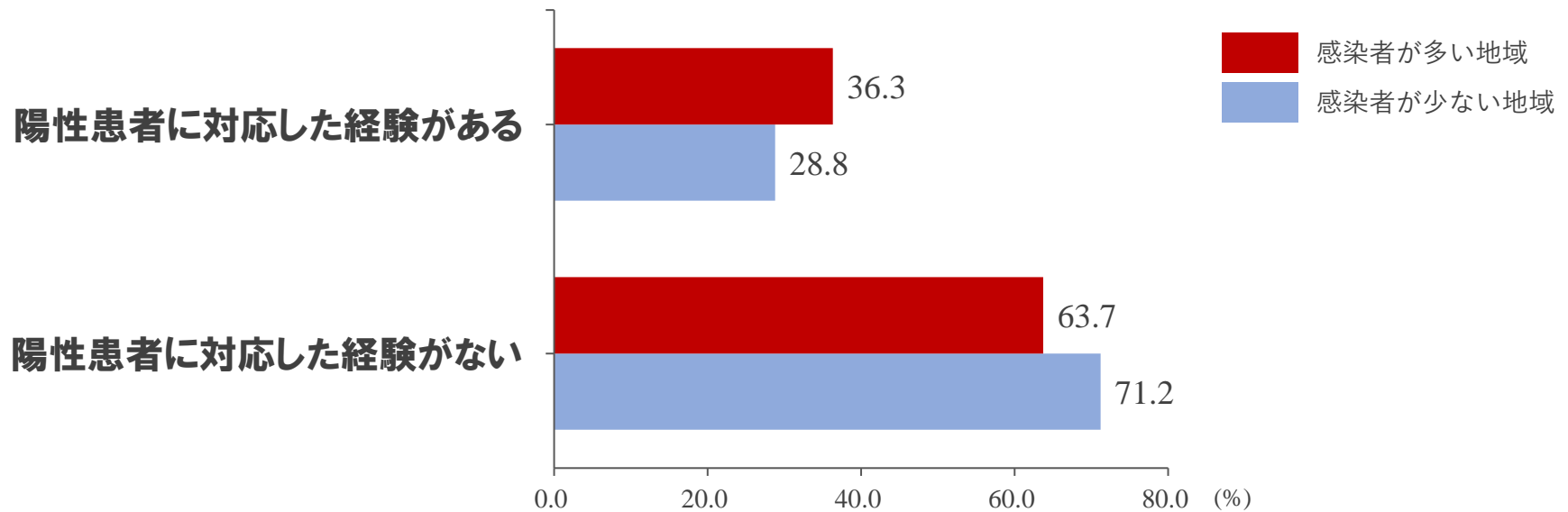
		n (%) / 平均 ± 標準偏差
性別	女性	2,091名 (92.0%)
	男性	182名 (8.0%)
平均年齢		40.2 ± 11.5歳
地域	人口10万人あたりの感染者数が 相対的に多い4都道府県	1,255名 (55.2%)
	相対的に少ない4都道府県	1,018名 (44.8%)

対象者の勤務する病院

- ◆ 対象者の勤務する病院が新型コロナウイルス感染症受け入れ機関であるかを尋ねた。
- ◆ その結果、本調査の対象となった看護職が勤務する病院は、感染者が相対的に多い地域も、少ない地域も、その約8割が新型コロナウイルス感染症患者受け入れ機関であった。

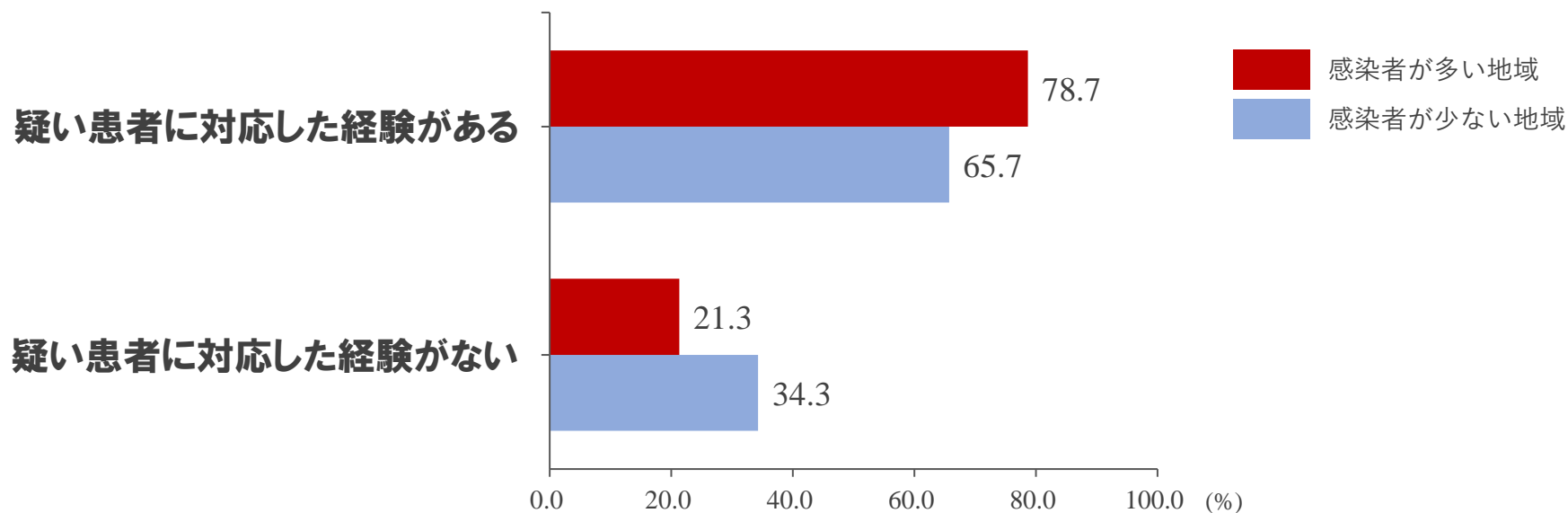


新型コロナウイルス感染症患者への対応経験



- ◆ 本調査の対象となった看護職が新型コロナウイルス感染症の陽性患者に対応した経験は、感染者が相対的に多い地域では36.3%、感染者が相対的に少ない地域では28.8%だった。
- ◆ 本調査では、1人の看護職が対応した患者数については質問しなかったため、感染者が多い地域と少ない地域とでの対応患者数の差は分からないが、感染者が少ない地域でも約3割の看護職が新型コロナウイルス患者の対応を経験していることが明らかになった。

新型コロナウイルス感染症疑い患者への対応経験



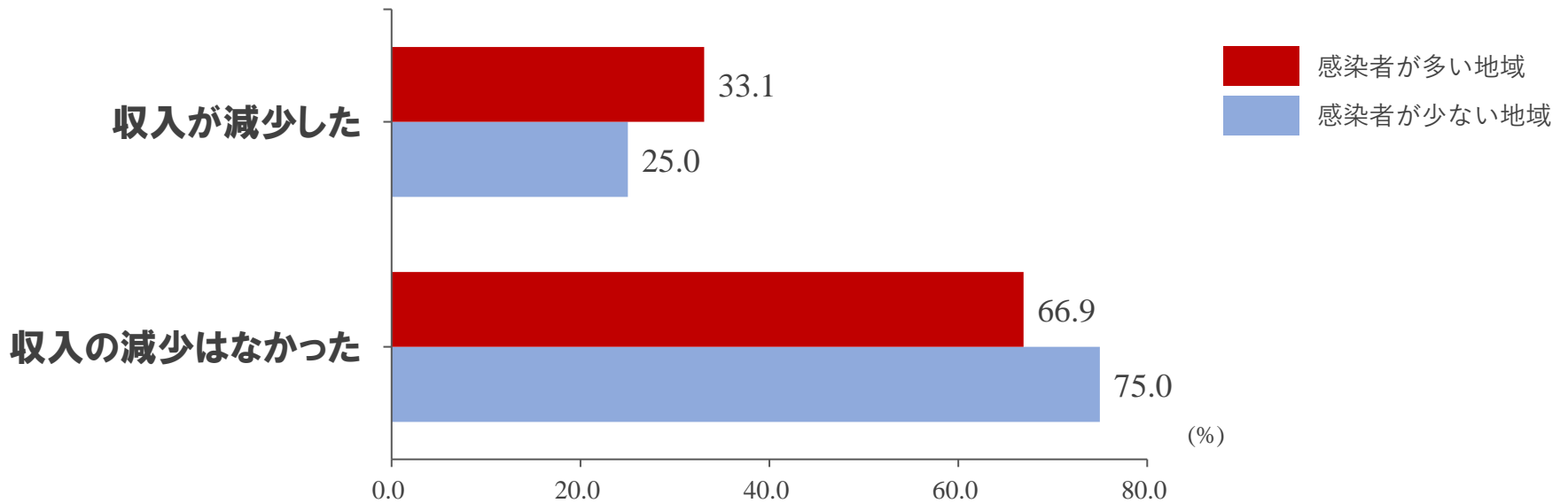
- ◆ 新型コロナウイルス感染症の疑い患者（結果的に陰性だった患者を含む）に対応した経験は、感染者が相対的に多い地域では78.7%の看護職が経験し、感染者が相対的に少ない地域では65.7%の看護職が経験していた。

Section 2

収入への影響と 差別の経験

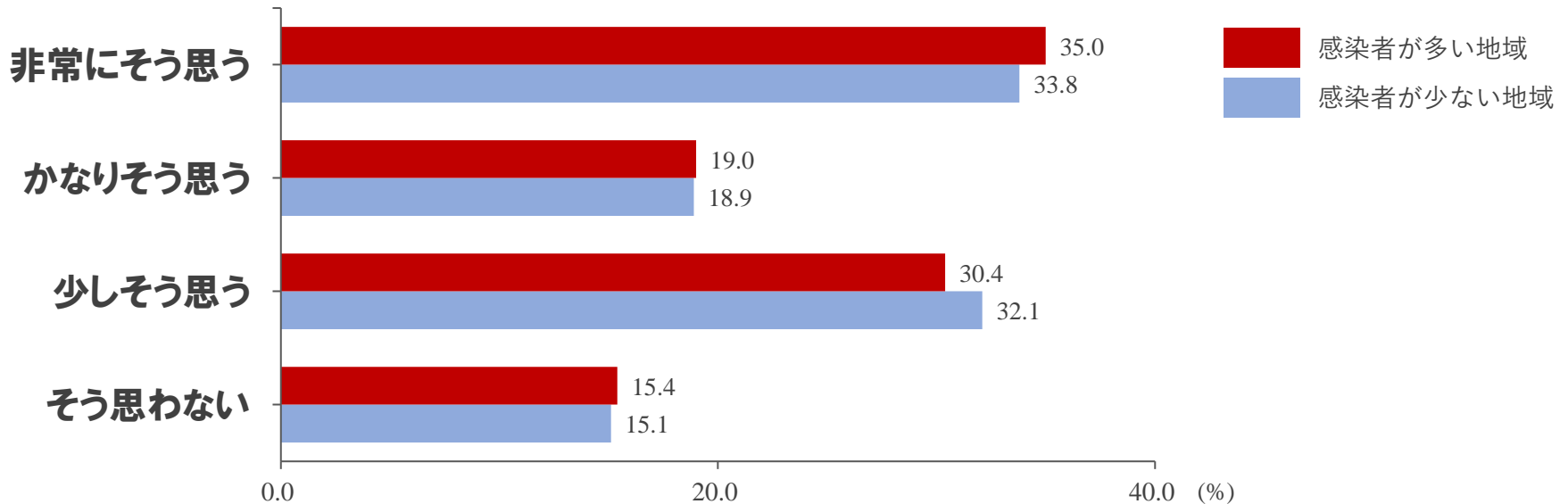
収入の減少の実態

- ◆ 「新型コロナウイルス感染症拡大の影響で収入の減少がありましたか」との質問に対しては、「収入が減少した」との回答は、感染者の多い地域で33.1%、感染者の少ない地域で25.0%だった。



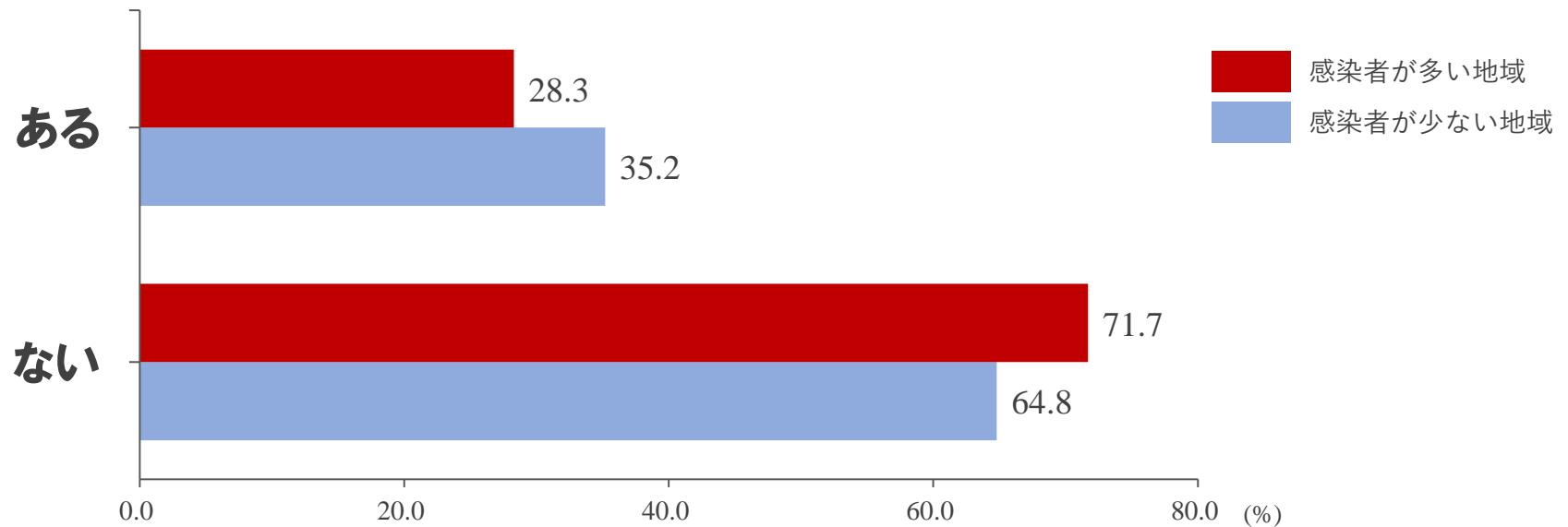
今後の収入減少の心配

- ◆ 「新型コロナウイルス感染症の影響で今後の収入の減少が心配ですか」との質問に対しては、感染者が多い地域も少ない地域も同様の回答分布であり、80%以上の看護職が程度の差はあれ、「そう思う」と回答した。



差別や偏見を受けた経験

- ◆ 「病院で働いていることで、新型コロナウイルス感染症に関する偏見や差別を受けたことはありますか」との質問に対しては、「ある」との回答は、感染者の多い地域で28.3%、感染者の少ない地域で35.2%だった。
- ◆ 感染者の多少に関係なく、医療者への差別偏見は発生していると推測された。



Section 3

精神健康の状態

本研究における精神健康の測定

◆ 本調査では精神健康を、「K6」という心理尺度を用いて測定した。

※ K6について Kessler RC, et al. Short screening scales to monitor population prevalences and trends in nonspecific psychological distress. Psychological Medicine 2002;32:959-76;

Furukawa TA, et al. The performance of the Japanese version of the K6 and K10 in the World Mental Health Survey Japan. Int J Methods Psychiatr Res. 2008; 17(3):152-8.

K6の質問文

最近1ヶ月間にどのくらいの頻度で次のことがありましたか。当てはまる回答を選択してください。

- ① 神経過敏に感じましたか
- ② 絶望的だと感じましたか
- ③ そわそわ、落ち着かなく感じましたか
- ④ 気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じましたか
- ⑤ 何をするのも骨折りだと感じましたか
- ⑥ 自分は価値のない人間だと感じましたか

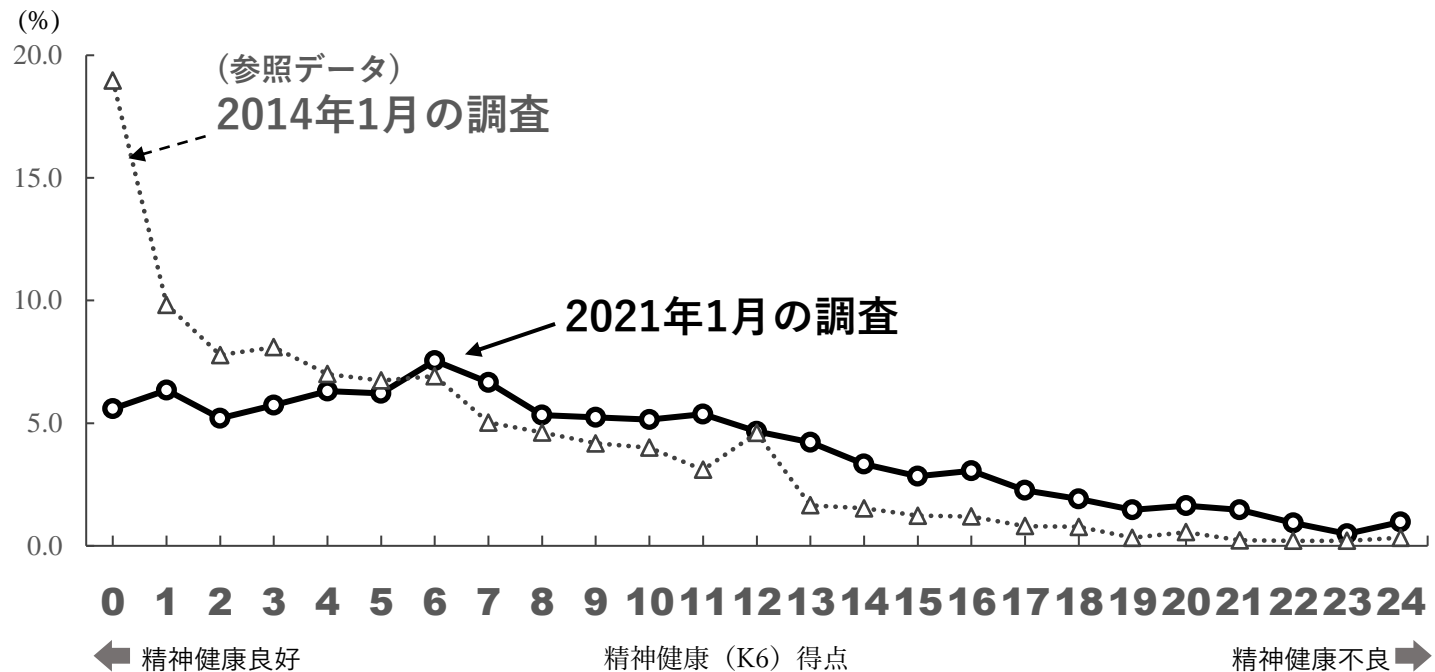
回答方法

いつも（4点）～全くない（0点）の5件法

※ K6の測定では、0点に近いほど精神健康は良い状態であり、24点に近づくほど悪くなる。

精神健康の状態(K6)①

- ◆ 以下の図では、2021年1月の調査結果と、2014年1月の参照データ（看護職5,557名を対象とし、感染症拡大や災害のない平時に収集したデータ）との比較を、得点分布で示した。



- ◆ 点数の分布を比較すると、2014年のグラフでは0点または0点に近い回答者が相当数いるが、2021年1月の調査ではその範囲の回答者が少ない。
- ◆ 2021年1月の調査では6点近辺で回答者が最も多く、6点以降の回答者の割合は2014年1月の調査よりも多くなっている。

精神健康の状態(K6)②

- ◆ 2021年1月の本調査と、2014年1月の平時に収集した参照データとで、看護職の精神健康の平均点を比較した。

		平均±標準偏差
2021年1月の調査	全対象者 (2,273名)	8.52 ± 5.88
	┌ 感染者が相対的に多い地域 (1,255名)	8.30 ± 5.95
	└ 感染者が相対的に少ない地域 (1,018名)	8.78 ± 5.79
2014年1月の調査		5.41 ± 5.05

- ◆ 感染症の拡大や災害のない平時のデータと比較して、本調査の全対象者の平均値は3.11点も高かった。本調査の対象となった看護職の精神健康は、平時と比べて相当に悪化していることが懸念される。
- ◆ 本調査の対象者を、感染者が相対的に多い地域と少ない地域とに分けて、平均点を算出したところ、それぞれ8.30 ± 5.95点、8.78 ± 5.79点であり、この両者に統計的な有意差は認められなかった。
- ◆ すなわち、感染者が多い地域でも少ない地域でも、看護職の精神健康は同程度に悪化していることが明らかになった。

精神健康の状態(K6)③

次に、K6のカットオフ値から精神健康を評価した。

※ カットオフ値とは、気分障害・不安障害の一次スクリーニングをする際に陽性/陰性を識別するための数値である。K6では、臨床上有益なカットオフ値として10点以上が提案されているため、本調査では10点をカットオフ値として、カットオフ値を超える対象者がどの程度いるのかを明らかにした。

	10点以上の割合
2021年1月の調査 （全対象者）	39.8%
2014年1月の調査	20.8%

- ◆ カットオフ値の10点を超える看護職は、平時の参照データ（2014年1月の調査）では20.8%だったが、本調査では39.8%であった
- ◆ 平時のデータと比べて本調査の対象者では、約2倍の数の看護職がK6のカットオフ値を超えるレベルで精神健康が悪化していることが明らかになった。

Section 4

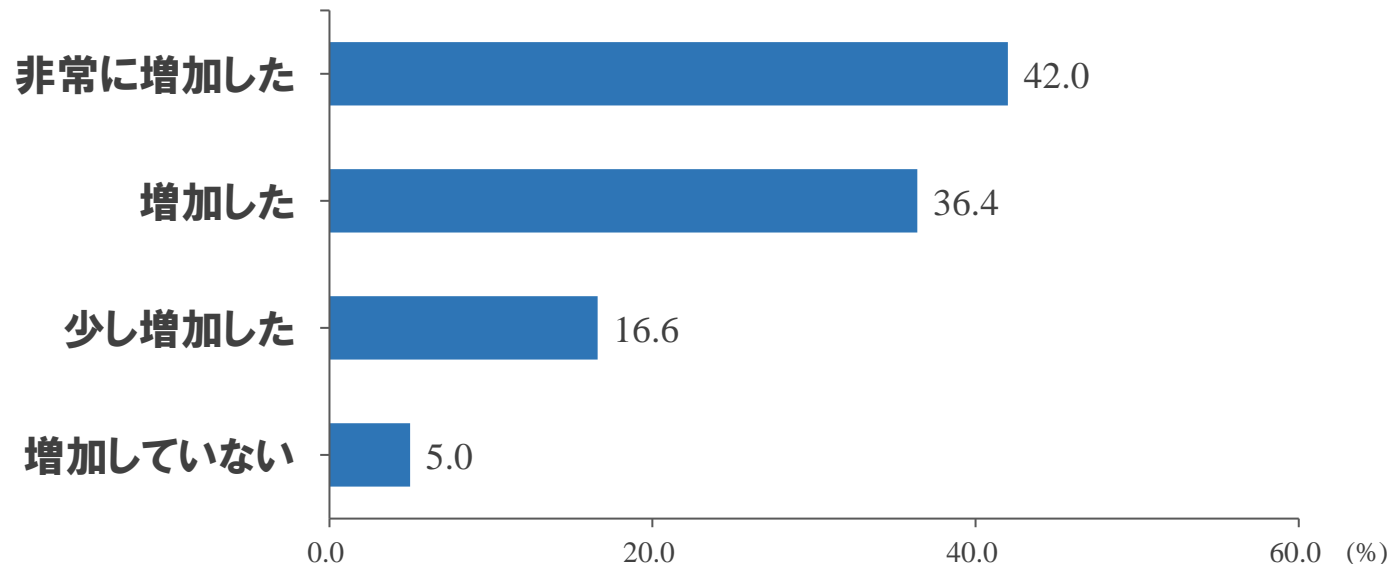
精神健康に影響を与えると 考えられる要因

※ このセクションでは、いち早く全体の状況をお伝えするため、地域別での結果はお示していません。

精神健康に影響する要因：「仕事の負担感」

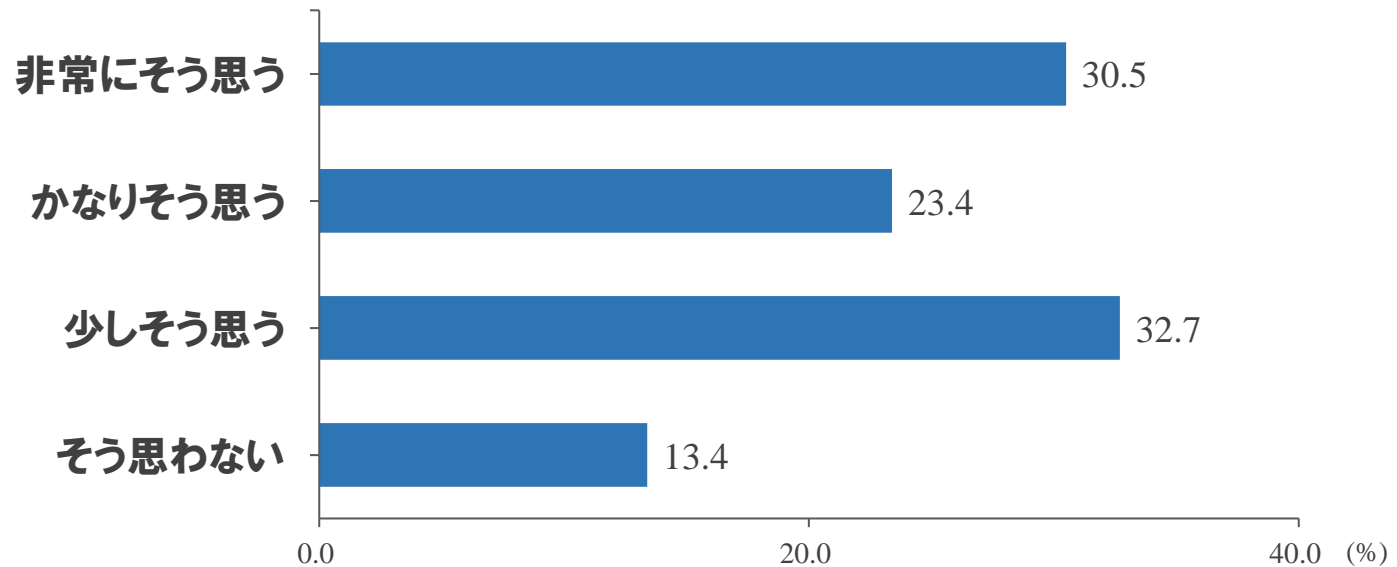
精神健康に影響すると考えられる要因の回答分布について、以下に解説する。

- ◆ 「新型コロナウイルス感染症の影響で、仕事に関する負担感は増えましたか」との質問に対し、「非常に増加した」と回答した看護職が42.0%、「増加した」と回答した看護職が36.4%であり、両者が全体の78.4%を占めた。



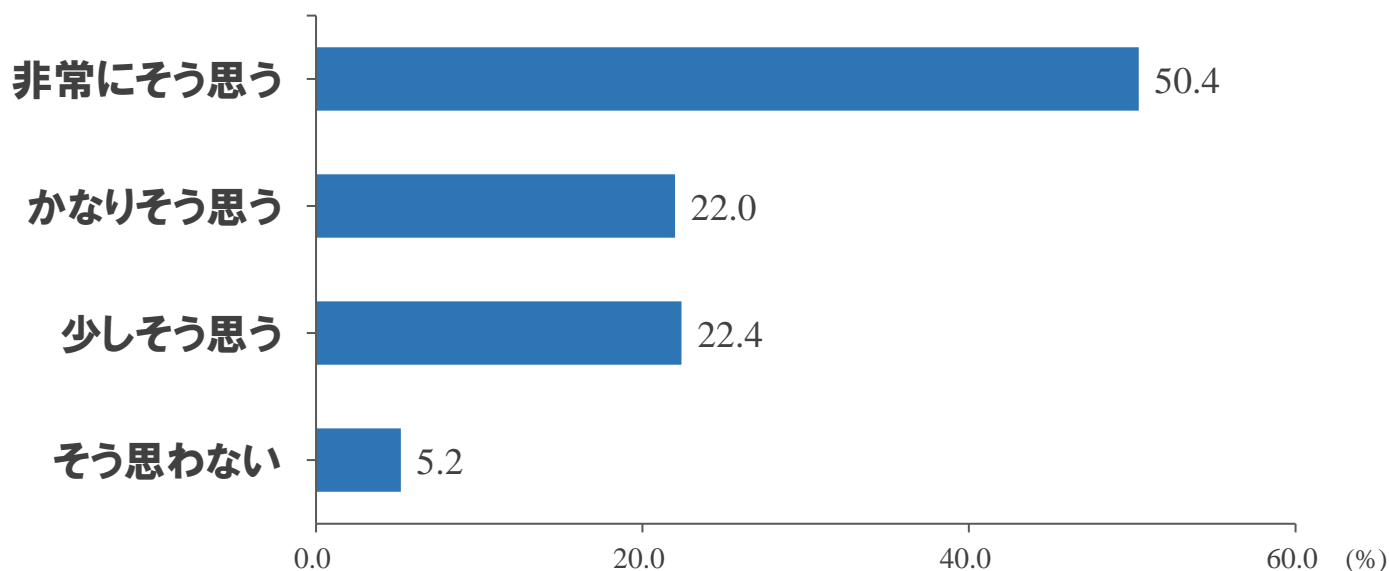
精神健康に影響する要因：「差別への恐怖」

- ◆ 「医療従事者であることで、新型コロナウイルス感染症に関連した差別を受けるのが怖い」との質問に対し、「非常にそう思う」と回答した看護職が30.5%、「かなりそう思う」と回答した看護職が23.4%であり、両者が全体の53.9%を占めていた。



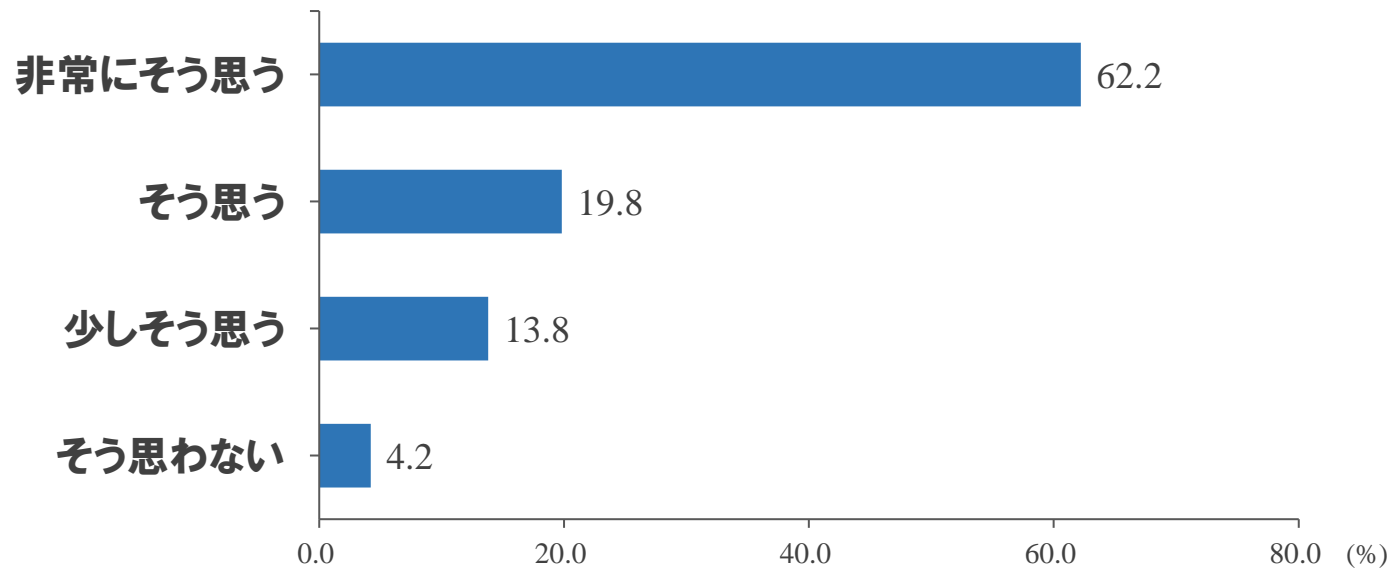
精神健康に影響する要因：「家族に感染させる心配」

- ◆ 「自分が家族に新型コロナウイルスを感染させるのではないかと心配である」との質問に対しては、「非常にそう思う」と回答した看護職が50.4%、「かなりそう思う」と回答した看護職が22.0%であり、両者が全体の72.4%を占めた。



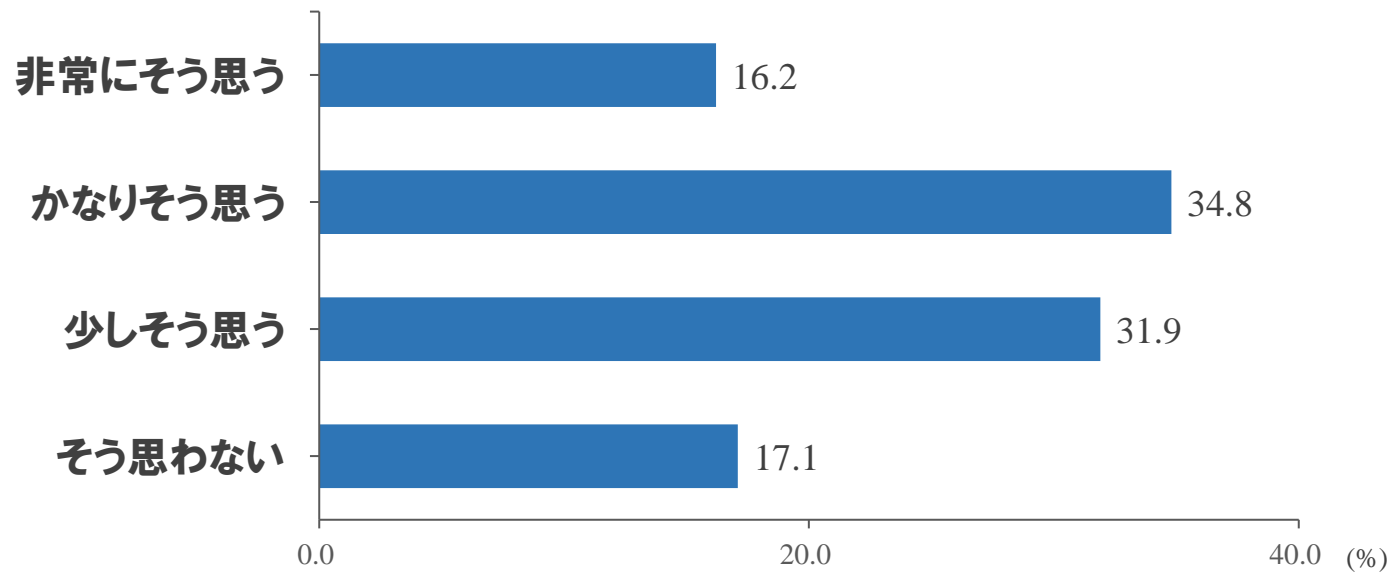
精神健康に影響する要因：「行動制限」

- ◆ 「医療者であるがゆえに旅行や外出を制限しなければならないことが辛い」との質問に対し、「非常にそう思う」と回答した看護職が62.2%、「そう思う」と回答した看護職が19.8%であり、両者で全体の82.0%を占めた。



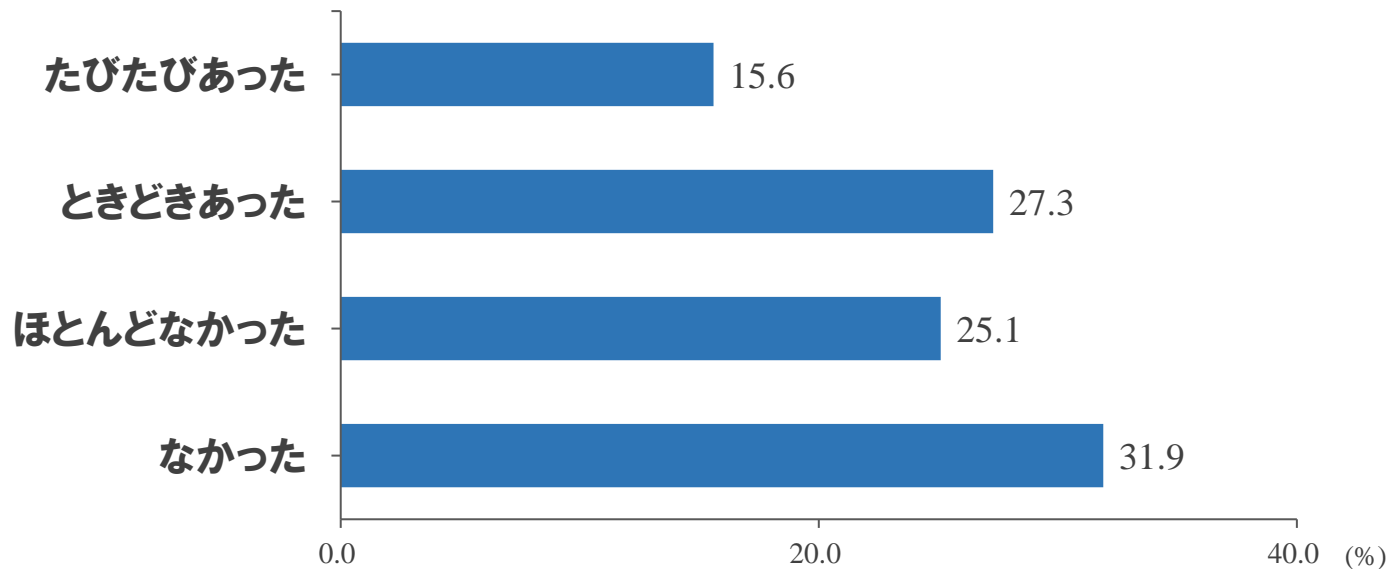
精神健康に影響する要因：「PPEの不足」

- ◆ 「最近3か月くらいの中に、個人防護具（PPE）は十分供給されていた」との質問に対し、「そう思わない」と回答した看護職が全体の17.1%であり、8割以上は程度の差はあれ「そう思う」と回答した。
- ◆ 2020年冬～春の感染症拡大初期よりも、PPEの充足率は高まっていると推測される。



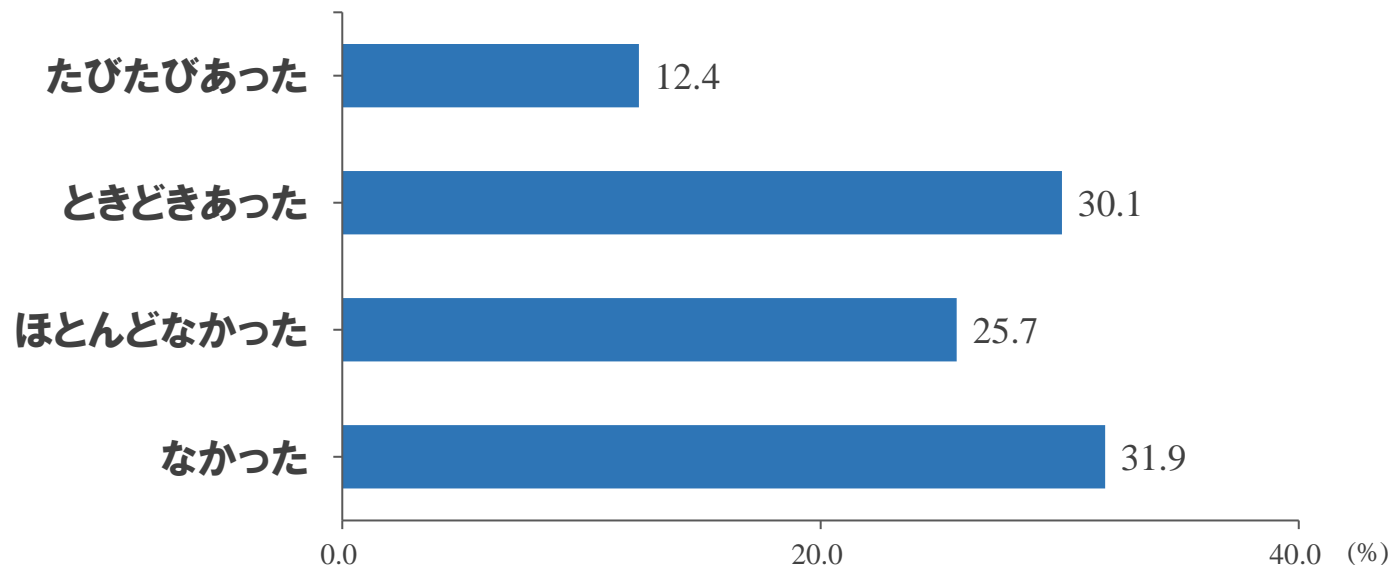
精神健康に影響する要因：「離職意向」①

- ◆ 「新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で、看護職の仕事を辞めたいと思ったことがありましたか？」の質問に対し、「たびたびあった」との回答が355名（15.6%）、「ときどきあった」との回答が620名（27.3%）であり、合計975名（42.9%）の看護職が程度の差はあれ、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、看護職の仕事を辞めたいと思う経験をしていた。



精神健康に影響する要因：「離職意向」②

- ◆ 「新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で、看護職の仕事続ける自信がなくなったことありましたか？」の質問に対し、「たびたびあった」との回答が280名（12.4%）、「ときどきあった」との回答が681名（30.1%）であり、合計961名（42.5%）の看護職が程度の差はあれ、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、看護職の仕事続ける自信を失う経験をしていた。



調査結果のまとめ

結果のまとめと考察

- ◆ 新型コロナウイルス感染症の流行拡大下における看護職の精神健康は、平時と比べて相当に悪化していると懸念された。
- ◆ 人口当たりの感染者数が相対的に多い地域で勤務する看護職の精神健康の平均値と、感染者数が相対的に少ない地域で勤務する看護職の精神健康の平均値の差に統計的に有意な差はなく、感染者数の多少に関わらず看護職の精神健康の悪化が懸念された。
- ◆ 看護職の約40%が、新型コロナウイルス感染症流行の拡大の影響で看護職の仕事を辞めたいと思ったり自信を無くしたと回答し、将来の離職が促進される可能性が危惧された。
- ◆ 新型コロナウイルス感染症流行の拡大の影響で、現実に収入が減ったと回答した看護職は、感染者数が多い地域のほうが多かったが、今後の収入については、感染者数が多い地域の看護職も少ない地域の看護職も、同程度に不安に感じていた。
- ◆ 医療者であることを理由に受ける差別は、感染者が少ない地域の看護職のほうが多く経験しており、医療者に対する差別や偏見は、感染者数の多少に関わらず発生していることが懸念された。

研究組織

東北大学大学院医学系研究科 看護管理学分野

朝倉京子（教授）

高田望（助教）

杉山祥子（助教）

住所 〒980-8575 仙台市青葉区星陵町2-1

電話 022-717-7932

E-mail kangokanri@nem.med.tohoku.ac.jp

研究室ホームページ <http://www.nem.med.tohoku.ac.jp/>